

はなみずき

第11号

(平成24年4月号)



遅れた桜も咲きそろい、病院の樹木の緑もめだつ季節になりました。

この2月には心大血管疾患リハビリテーション科を開設しました。心不全や虚血性心疾患、閉塞性動脈硬化症の患者さんの予後改善に大きな役割を果たすものと期待しています。昨年11月には念願の地域医療支援病院の認証をうけました。また検体検査管理加算の施設認定も取得できたこともあり、4月の診療報酬の改定では病院の体制整備が高く評価された内容となりました。

新年度になり職員も大幅に増え、循環器内科では心臓血管センターを発足させることが出来ました。急性心筋梗塞、心不全など心臓の救急も含めた治療管理体制が充実します。放射線科にも新しい部長を迎えました。MRI、CTなど検査体制の充実と迅速な所見の報告に努めたいと思います。そのほか整形外科、外科、泌尿器科、呼吸器内科なども医師の増員がありました。数、量の充実だけではなく、医療の質もさらに向上するよう頑張っています。

患者さんがこの地域で安心した生活をおくっていただけるよう、地域の診療所・クリニックの先生方と病診連携をますます強固にし、地域医療に貢献していきたいと思っています。

院長 林 亨

当院ご利用案内

診療受付時間

☆月～金曜日	初診 8:30～11:30	12:30～14:30
	再診 8:30～11:30	12:30～14:30
☆土曜日	初診 8:30～11:30	
	再診 8:30～11:30	
☆休診日	日、祝、12/31、1/1、1/2、1/3(年末年始)	

☆専門外来【予約制】

受付12:30～14:00 (診察日は異なります)
乳腺外来、大腸肛門外来、胃・食道外来
(外科外来受付まで)

☆専門外来【完全予約制】

・ピロリ菌専門外来、膠原病・リウマチ、禁煙外来
(お問い合わせは内科外来受付まで)
・肝・胆・膵外来 (お問い合わせは外科外来受付まで)

初診の方で紹介状をお持ちでない方には、別途保険外併用療養費として3,150円いただきます。歯科・口腔外科、耳鼻咽喉科、心療内科、神経内科への受診は、予約の上紹介状が必要となります。

医療相談窓口

患者さんやご家族の方々から下記のような様々なご相談をお受けしています。
誰に相談していいかわからないことがあれば、まずは医療相談窓口にご相談ください。

- (1) 医療に関すること
- (2) 当院での受診に関すること
- (3) 病院に対するご意見、ご要望、苦情等に関すること
- (4) 個人情報保護に関すること
- (5) 医療安全に関すること

なお、医療相談窓口でお受けしたご相談内容でご希望があれば、日時を調整の上当院の第三者委員を交えて相談することができます。

地域医療の中核病院として、地域医療の充実に貢献 地域医療支援病院

平成23年11月25日付けで、吹田市で2番目となる「地域医療支援病院」を大阪府知事より承認を受けております。今後も、地域の医療機関(当院では420名を超える登録医の方々)との医療連携により、地域医療に貢献してまいります。

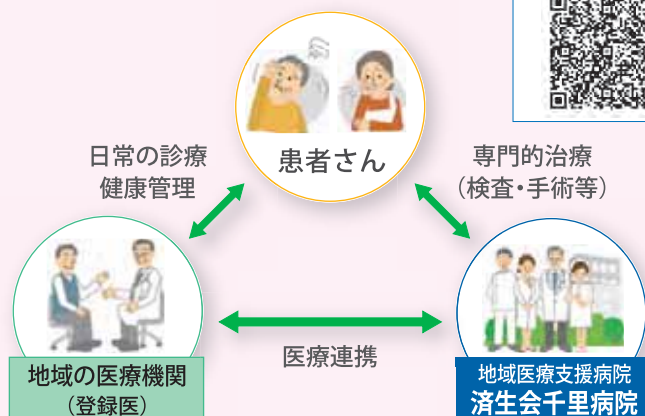
【地域医療支援病院の役割】

- ① かかりつけ医(登録医)からの紹介患者に対する医療提供
- ② 登録医との当院施設(高度先進医療機器)の共同利用による医療支援
- ③ 救急医療の提供
- ④ 地域の医療従事者への教育・研修による地域医療の質の向上

【患者さんへのメリット】

- ① 登録医との連携により、適切かつ継続的な医療をスムーズに受けることができる(地域完結型医療)。
- ② 24時間365日救急医療体制が確保される。

詳細については、
当院ホームページ
等もご覧ください。



医療相談窓口の紹介

本日は、当院の正面玄関すぐにある「医療相談窓口」について、看護師の浅岡めぐみ（副師長）さんと事務員の浜辺俊子さんのお二人にインタビューをいたします。まず伺いたいのは、医療相談窓口ってどのような相談を受けているのですか？

浅岡「5つあって、①医療に関する相談について ②当院での受診に関すること ③病院に対するご意見、ご要望、苦情等について ④個人情報保護に関すること ⑤医療安全に関する相談についてです。」

医療や受診に関することって、どのようなご相談がありますか？

浅岡「この間も、受診した方が良いのか迷っていらっしゃる方がお越しになり、話を聞くと、直感的に受診した方が良いと判断し、主治医につなげた結果、すぐに入院になった患者さんがいらっしゃいます。」

なるほど、何科を受診したらいいのかを相談するだけでなく、受診そのもののご相談もあるんですね。

浅岡「はっきりと、ご相談という形じゃなくてお越しになる方もいらっしゃいますが、実は受診が必要であったり、病気に付随する生活の課題を抱えておられたりするので、気が抜けませんね。」

ご意見や苦情も多いのですか？

浜辺「1ヶ月に20～30ぐらいいただきます。設備に関することや案内ミスや説明不足が多いですね。中には、職員の対応が足らなかったと思うのがありますね。」

例えば？

浜辺「お待たせしてしまったときに『お待たせして済みません』とはっきり謝罪すればいいのに、それがなかったり、痛さを伴うときに『少し痛いですが、頑張ってくださいね』と言うのか言わないのかでずいぶん違いますね。」

いただいたご意見をどのようにフィードバックされているのですか？

浜辺「全て記録に残し、毎週会議を開き、当事者やその上司、患者サービス委員会、院長にも報告しています。そして、それを全職員に配信しています。投書箱も同様

で、できる限り、回答を公開しています。」

職員向けの接遇研修もありますね。

浜辺「はい。講師には事前に当院の実例も伝えた上で、講義をしてもらうようにしています。」

そうしたご意見が具体的な改善に結びついたというものはありますか？

浜辺「携帯電話の使用区域の見直し、お見舞い受付、精算機の請求額が他の方に見えにくくする工夫など、数え切れない改善のヒントをいただきました。」

まさに改善のヒントですね。最後に、普段特に気に留めていらっしゃることを教えてください。

浅岡「この方の本当の課題は何かと言うことを、しっかりと聞き出し、必要な部署につなぐことを心がけています。また、近隣地区の保健医療福祉等に関する情報もご提供できるよう、情報収集に努めています。」

浜辺「医療のことは浅岡さんに任せて、私はしっかりと聞くと言うことを心がけながら、できるだけ周りにも注意して、こちらからお声かけができるように心がけています。」

こうした窓口の重要性が改めてよく分かりました。本日は、有難うございました。

～新人職員紹介～

新しい仲間を迎えました！



今春 済生会千里病院に、医師8名、後期研修医13名、初期研修医8名、看護師32名、薬剤師1名、管理栄養士1名、臨床工学技士2名、事務職員5名、社会福祉士1名の新卒34名を含む71名の活気あふれるスタッフが入職しました。初めは至らぬ点もあるかと思いますがよろしくお願いします

無料低額診療事業の相談について（ご案内）

当院は社会福祉法人の病院であり、社会福祉法に規定された経済的な事情により必要な医療が受けられない人々に対して適切な医療を受けることができるように支援することを目的とした無料低額診療事業を行っています。

「急な入院で支払いができない」「介護もしているので、費用負担が重い」「非課税世帯で収入が少ない」「障害者手帳を持っていたり医療費助成制度の対象になっている」など医療費の負担ができないといった相談を具体的に解決していきます。また、さまざまな保険制度に関することや医療費の支払いに関する相談も受け付けています。相談は、産科・婦人科の奥にある福祉相談室にてソーシャルワーカーが承っています。

このほか「介護が必要になりそうだが、どうしたらいいか分からない」「がんで治療をしているが、今後のことについて情報提供してほしい」「離れて暮らしているので、一人暮らしの父親のことが心配だ」などの生活に関する相談も受け付けています。

福祉相談室受付時間：平日午前9時～午後4時・土曜9時～12時（受付状況によりお待たせする場合がありますが、ご了承下さい。）

■ 医療の提供の結果に関する事項（厚生労働省「医療広告ガイドライン」に準拠）

項 目	単位	H23年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H24年 1月	2月
新 入 院 患 者 数	人	832	750	712	797	753	831	716	795	776	796	766	799
退 院 患 者 数	人	807	775	704	762	798	806	742	779	763	873	664	825
在院患者数(24時現在)	人	9,215	8,664	8,991	8,783	9,085	8,994	8,669	9,011	8,759	8,845	9,341	8,763
1日平均在院患者数(※1)	人	323.3	314.6	312.7	318.2	318.8	316.1	313.7	315.8	317.4	313.5	322.7	330.6
平均在院日数(※2)	日	11.0	11.0	12.7	11.2	11.7	10.7	11.5	11.2	11.3	10.5	12.7	10.6

(※1) 退院患者数+在院患者数(24時現在)を暦日数で割ったもの。

(※2) 在院患者数(24時現在)を(新入院患者数+退院患者数)/2で割ったもの。

当院の活動紹介

東日本大震災から1年

～災害医療について～

副院長 甲斐達朗



3月8日医師会主催の市民向け災害医療シンポジウムで講演する甲斐副院長

「本日は、災害医療の第一人者で、普段から諸外国に招かれ国際的にも活躍されている甲斐副院長（千里救命救急センター長）に東日本大震災を中心に災害医療について伺いたいと思います。早速ですが、救急医療と災害医療の相違点から教えて頂けますか？」

普段の救命救急医療は、一人一人の重症患者さんを治す役割がありますね。だいたい、100万人の人口であれば、1日に4～5名発生するといわれている重症患者さんを治療します。しかもその1人の患者さんのために多くの医療従事者が治療に当たることができます。しかし、災害時は、重症の患者さんが一挙に沢山出ますね。そうすると、一つの救命救急センターでは対応できないので、初期治療をしながら、どの順番でどこに搬送という課題が出てきます。そうしたことが、普段の救急医療と大きく違うところです。一口に災害医療と言っても、大震災か列車事故かによっても変わってきます。大地震の場合は、医療施設も被災しますし、電気・水道・交通などの社会基盤も被災します。また、災害の種類によって、重症者が多く出るのか、死亡者が多いのかによっても対応が変わってきます。そのように、一つのマニュアルで対応しきれない難しさが災害医療にあります。

「昨年津波の問題はどう捉えればいいのでしょうか？」

津波で死亡された原因は、流されている途中で物に当たって死亡した外傷か、溺死かでありましたが、溺死の方に関して言えば、季節が夏であれば、もっと救えたのではなかったかと悔やんでいます。

「規模や、種類だけでなく、季節によっても違ってくるんですね。」

全く違いますね。しかし、いずれにしても言えるのは、災害に対する準備が大切であるということです。今回の東日本大震災に対してDMAT（ディーマット：災害派遣医療チーム）は、訓練どおりに派遣できたと思っています。阪神淡路大震災のときの反省を踏まえて作りましたが、あれだけ大規模にDMATが派遣されたのは初めてでした。ただ、残念なのは、DMATの任務の当初設定していた任務は「発災直後の2～3日活動すれば、本格的な医療班が到着するので、それまでの間だけを担当する」ということでしたが、これほどの大災害では大学、日赤、国立病院、医師会などの医療班へ引き継ぎがスムーズにできな

ったことです。そうした反省点を踏まえ、もう少し長期でも活動できるチームを厚生労働省と考えていて、テキストの改訂や訓練内容も変更しているところです。

「DMATの考え方の良いところは、準備のできたチームから、行き先だけの指令を受けて、災害地に入り、一番先に到着したチームが指令隊になり活動してゆくという、従来の集中指令という考えとは違う発想だと思いました…」

ただ、今回は、次の医療までは、つながらなかった。日赤だけではなくて、医師会や学会が、オールジャパン体制でつながなければならない状況でした。それほど、大規模な災害でした。

「昨年度に立ち上がった大阪府医師会救急・災害医療部災害医療体制あり方検討ワーキンググループ委員長というお立場もあると思いますが、大阪の災害ということを考えてとき、当院はどのような役割になりますか？」

当院は、災害拠点病院なので、役割は決まっています。災害により機能低下しようが、残された機能を使い、最大限の努力をして重症患者さんを診なければならない、という事です。しかし、今考えているのは、避難所に避難した住民の健康管理があります。この発想は、海外に国際緊急援助隊として参加して学んできたものです。災害になると、それまで潜在化していた問題が急に表に現れてきます。高齢化の問題、在宅療養中の方の問題、それらが全て表に出てくるので、確実に増えつつあるそうした人たちの治療・ケアが重要になってくると思います。今までの経験で、どんな課題が出て来るのかが、分かってきました。避難所に避難するだけで、なにもしなければ、元気な高齢者の数割が要介護状態になります。それを防がなければならない。その他、避難した人の持参薬の問題があります。高血圧の薬、糖尿病の薬、精神疾患の薬がどの程度必要かを統一の調査用紙で避難所毎に調査する必要があります。この調査は個人情報と結びついていくだけに一般の方では非常に難しい。でも、必要な調査なのです。そうすることにより、必要な医薬品が必要となる場所に届くようになるのです。妊婦さんや子どもの様子も確認しなければならない。実は、そういうことをお願いできる重要な担い手が、近隣の開業医の先生方なんです。先生方と災害前から役割分担をしておく、災害医療は、事前にどれだけ準備できているかということです。そういうことを今、考えています。

機能拡充につき
看護師募集



行事予定

済生会千里病院

平成24年

4月～6月

※変更になる場合があります。
予めご了承下さい。



■大阪府AED・BLS講習会

【日時】 6月13日(水) 13時～17時
【開催場所】 病院東館3階講堂

【お問い合わせ】 大阪ライフサポート協会事務局
TEL 06-6370-5883 (10時～17時) ※要予約

■糖尿病教室

【日時・演題】 4月2日(月) 薬物療法～糖尿病治療薬をわかりやすく説明します
糖尿病食品交換表で春のメニューを考えよう

5月7日(月) 糖尿病の合併症について
6月4日(月) 糖尿病の運動療法 13:00～14:00

【開催場所】 病院東館3階研修室 【お問い合わせ】 栄養科 TEL 06-6871-0121 内線208

■肝臓病消化器病教室

【日時・演題】 4月23日(月) 「胆石症について」
6月7日(木) 「ピロリ菌について」 15:00～

【開催場所】 病院東館3階研修室 【お問い合わせ】 なでしこプラン推進室 06-6871-0121 内線603
または当院総合受付2番窓口※要予約(先着40名)

■北千里地区公民館主催市民健康講座

【日時・演題】 6月23日(土) 「小児のけいれん」「乳がんの治療について」
【開催場所】 北千里地区公民館

【お問い合わせ】 なでしこプラン推進室 06-6871-0121 内線603

■母親教室

助産師が妊娠後半期のマイナートラブルや分娩経過・入院方法について分かりやすく説明しております。
ご家族の参加もお待ちしております。

【日時】 毎月2回(第1木曜日・第3土曜日)

【開催場所】 病院病棟3階デイルーム 【お問い合わせ先】 産婦人科外来 06-6871-0121 ※要予約

セカンド・オピニオンについて

他の病院で治療を受けられている方が、当院の医師に意見を聞きたいというご希望に応える為に、セカンド・オピニオン外来を行っております。

【お問い合わせ】

1階総合受付カウンター(医事課)

患者さんへのお願い

- 療養環境向上の為、敷地内禁煙となっておりますのでご理解いただきますようお願いいたします。
- 携帯電話のご利用は「携帯電話エリア」にてお願いします。
なお職員が使用しております携帯電話(赤色ストラップ付)は、一般の携帯電話とは異なるものです。

卒後臨床研修病院について

当院は臨床研修医に対する教育病院(臨床研修病院)です。
指導医の指導の下、日々研鑽を積みながら患者さんの診療に当たっております。臨床研修医に対し、お気付きの点があれば、何なりとご意見をお寄せ下さい。

済生会千里病院の理念

「心のこもった医療」

基本方針

私たち、済生会済生会千里病院の職員は、

1. 窮境にある人々の医療を積極的に支援します。
2. 安全で良質な医療を心をこめて提供します。
3. 医療の透明性とアカウンタビリティ(説明責任)に忠実である病院を実現します。
4. 地域の中核病院として、また救急医療を含む急性期医療の実践により地域医療に貢献できる病院を実現します。
5. 常に研鑽を積み、最高、最適の医療を追求します。

職員の信条

私たち職員は、患者さんのために、地域のために、心をこめて最高最適の医療を提供します。

患者さんの権利と責務

(患者さん－医療者のパートナーシップの強化)

1. どなたにでも常に人格を尊重し、良質で安全な医療を公平に提供します。
2. あなたの病気やその診療について、わかりやすい言葉で詳しく説明をするよう努めています。もし、わからないところがあれば質問してください。
3. あなたが、気になること、疑問に思うこと、希望することなど、遠慮なくご相談下さい。
4. 他の医師の意見(セカンド・オピニオン)や他の医療機関に転院を希望される場合は、おっしゃってください。
5. 治療方法などをご自分の意思で決めていただけるよう、十分な説明と情報提供を行います。
6. 診療の過程で得られた個人情報の秘密を守ります。また、病院内での私的な生活が、可能な限り他人にさらされず、乱されないように努めます。
7. 良質な医療を提供するため、あなたの健康に関する情報をできるだけ正確に伝えていただくようお願いします。
8. すべての患者さんが適切な医療を受けられるように、他の患者さんの診療に支障をきたさないよう、ご配慮をお願いします。
9. お互いに理解を深め、ともに治療を進めていきましょう。

個人情報保護方針について

個人情報保護法の趣旨を尊重し、患者さんの個人情報を厳重に管理し、これを担保するために「個人情報保護方針」「個人情報保護規程」「個人情報保護計画」を定めております。

地域医療支援病院

社会福祉法人

大阪府済生会千里病院

広報ホームページ委員会(経営企画課)

〒565-0862 大阪府吹田市津雲台1丁目1番6号 TEL.06-6871-0121(代)
ホームページ <http://www.senri.saiseikai.or.jp/>

■ 本紙についてのご意見・ご感想などございましたら、下記までお寄せ下さい。
E-mail: hanamizuki@senri.saiseikai.or.jp (右のQRコードからもアクセスできます)

